

Authority and Conceptual Art

第3週目発表班 プレレジュメ

今回、私達第3週目発表班は、コンセプチュアル・アートの最盛期であった1960年代後半から1970年代にかけて、コンセプチュアル・アート(アーティスト)が一体何を目的とし、そして何を行ってきたかを、時代背景を踏まえつつ考察したいと思います。以下の3項目は発表に際しての事前知識です。難しい部分があるとは思いますが、最低でも【時代背景】だけは理解した上で発表を聞いていただきたいと思います。

【用語説明】

①ヴェトナム戦争

→1946年に共産主義であるヴェトナム民主共和国(北ヴェトナム)が独立したことに伴い、後にヴェトナム南部においてヴェトナム共和国(南ヴェトナム)が成立する。ヴェトナム共和国はアメリカによって全面的に支援されており、事実上この戦争は共産主義勢力対資本主義勢力の代理戦争だった。

②ヴェトコン

→共産主義である北ヴェトナムの指導の下、南ヴェトナム内部において結成された反アメリカ・反帝国主義の組織。ゲリラ戦法などを用い、南ヴェトナム軍(アメリカ軍)を消耗させた。

③テト攻勢

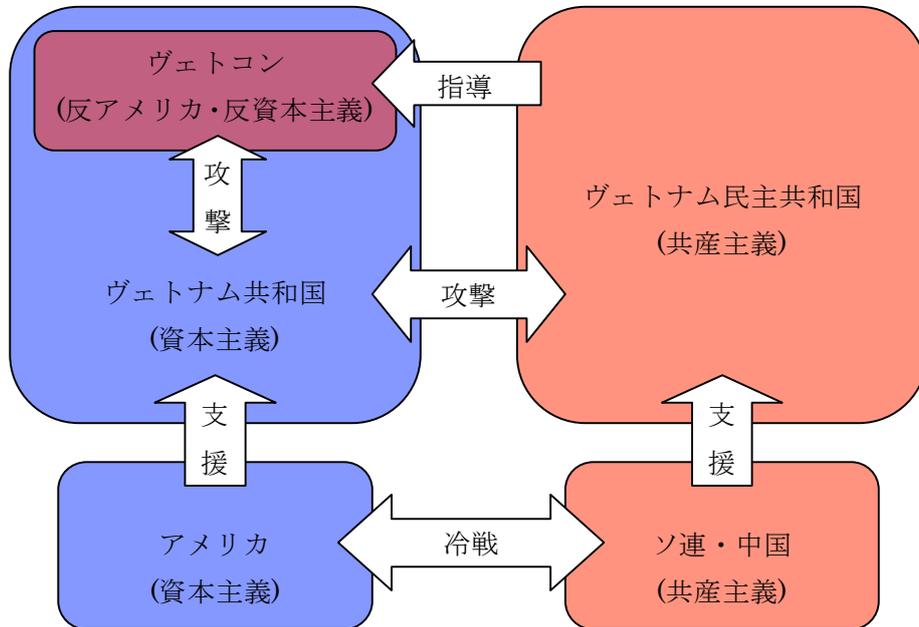
→テト休暇(ヴェトナムの旧正月休暇)の期間中、北ヴェトナムとヴェトコンによって行われた大攻勢。北ヴェトナムと南ヴェトナムの間では、暗黙のうちにテト休暇期間は休戦することが慣例になっていたため、南ヴェトナム軍(アメリカ軍)は多大な損害を受けたが、この攻勢はすぐに鎮圧された。

【時代背景】

①資本主義の否定

1959年から始まったヴェトナム戦争が1975年にアメリカの敗北という形で終焉を迎えた。そのヴェトナム戦争の中でも1968年に起こったテト攻勢は、アメリカという資本主義の大国の今後を左右する大きな事件だった。テト攻勢はアメリカによって鎮圧されたのだが、アメリカ内外において、そのやり方に対し信用を失った人は多かった。テト攻勢とその鎮圧は、後にアメリカ軍への反戦運動が強くなっていく一つのきっかけにもなった。

1968年時のベトナム勢力図



【宿題】

文献の6章を読んだ上で、1960年代から1970年代におけるコンセプチュアル・アーティスト達が作品を通して①何をしたかったのか と ②その理由 を考えて紙にまとめてきてください(字数制限はありません)。当日発表班が回収して、議論のネタにしたいと思います。